



Jamboardで「防災シミュレーションゲーム『クロスロード』」



重ねるハザードマップの活用

活用場面

一斉学習

教師による教材の提示

協働学習

協働での意見整理

活用した機器等

Chromebook

活用したアプリ等

Google Classroom
Google Jamboard
重ねるハザードマップ

学習のねらい

災害時における他者との合意形成のための判断力やコミュニケーション力を身につけ、これまでの学習を踏まえて、被災時の行動について思考・判断することができるようになる。

学習の流れ

導入
過去の日本において災害時に実際に起こった場面について、防災シミュレーションゲーム「クロスロード※」を通して確認する。
※阪神・淡路大震災で災害対応にあたった神戸市職員へのインタビューをもとに作成された、カードゲーム形式の防災教材

展開
防災シミュレーションゲーム「クロスロード」を個人とグループワークの2パターン行い、「自助」と「共助」の両方の視点で自分の行動について考える。学校周辺やUSJなど大阪の有名な場所の地理的環境を踏まえた条件でも考える。

まとめ
自分の思考・判断と他者との合意形成が被災時にどちらも重要であることを振り返る。

ココでICTを活用!

Google Jamboardに防災シミュレーションゲーム「クロスロード」のお題とそこでの状況判断A、Bを色分けして配置することによって、個人で判断した答えを入力した結果がどんな割合になっていて、その理由がどんなものなのかを可視化し、全体で共有することができるようにした。さらにグループをつくり、合意形成をした意見も全体で共有できるようにした。
また、GISにある「重ねるハザードマップ」を活用して今回の課題で扱う地域の地理的環境を可視化することで、地理的な思考・判断ができるように促した。

活用のメリット、実践の工夫・振り返り等

Jamboardを使用することによって、クラスの意見をリアルタイムで共有でき、また大きな制作物ではなく個人端末から確認しながらの振り返りも容易であった。

1人1台端末の操作やJamboardなどのアプリの使用に慣れていることが必要になるので、普段の授業から学習のねらいを効果的に達成するために端末の活用をすすめていく授業計画が必要であると考えられる。